

# 第1章 平成24年度の研究について

西多 由貴江

## 1. 研究テーマ

### 『 幼稚園における遊びを探る 』 ～遊び込む姿をめざして～

## 2. 研究テーマについて

### (1) 日々の幼児の姿から

本園では「一人一人の幼児が自分なりの力を発揮し、友達とかかわり合いながら生きる力をやしなう」を教育目標とし、幼児が友達とかかわり合いながら遊ぶ姿を大切に生活している。しかし日々の保育の中、おもしろそうな遊びを見つけるたびにそれらの場を移動しながら過ごしているため、友達とかかわり合う姿にまでいたらない幼児、気の合う友達と一緒にいることで満足してしまい、自分で何をしたいかなかなか決めることができない幼児が増えてきている。また、「お母さんに怒られるから」「お母さんが言っていたから」などの言葉が聞かれ、本当に自分のしたい遊びができているのだろうかかと疑問に思う姿も見られる。そこで、幼児が自分で本当にしたい遊びを見つけ、取り組むことができるように、幼児の遊びをしっかりとみていきたいと考えた。

### (2) 本園の教職員の実態を受けて

ここ数年、本園の職員構成が大きく変わり、職員間の連携の再構築と同時に日々の保育を充実させ、遊びをどのように捉え指導していけばいいかを共通理解していくことが課題となっている。研究会を重ねる中で、幼児は遊びながら学んでいると言われていたが、「どうしたことなのだろうか」「どのような教育的意味があるのか」と疑問に感じたり、「子ども達は本当に学んでいるのだろうか」「幼児らの学びは何なのだろうか」と悩んだりしている教師の姿があった。幼児の遊びの中の学びをしっかりと捉えていくためには、教師一人一人が「遊び」をしっかりと捉えなければならない。このことから、幼児の学びを支えていくために、まずは幼児の「遊び」を探っていくことが必要だと考えた。

### (3) 幼稚園教育の今日的課題を受けて

「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続のあり方について(報告)」(平成22年11月 幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続のあり方に関する調査研究協力者会議 文科省)の中で、「学びの芽生えとは、学ぶということを意識しているわけではないが、楽しいことや好きなことを通じて、様々なことを学んでいくことであり、幼児期における遊びの中の学びがこれに当たる」「幼児期は自覚的な学びへと至る前の段階の発達の時期であり、この時期の幼児には遊びにおける楽しさからくる意欲や遊びに熱中する集中心、遊びでのかかわりの中での

気づきが生まれてくる。こうした学びの芽生えが育っていき、それが小学校に入り、自覚的な学びへと成長していく」と幼児期の遊びの重要性が記されている。この点からも幼児期における「遊び」をしっかりと捉え、探っていくことが大切だと考えた。

#### (4) 本研究のテーマへ

(1) (2) (3) から、研究テーマを「幼稚園における遊びを探る」と設定した。

幼児期の教育の原点に立ち返り、幼稚園における遊びをみつめ、幼児らの遊びについて探りたいと考えた。

### 3. サブテーマについて

今年度、サブテーマを「遊び込む姿をめざして」とした。なぜなら、幼児は遊び込む中でたくさんのことを学んでいると考えるからである。しかし、「遊び込む」といっても教師一人一人の捉えは様々であった。そこで、秋田喜代美氏の「遊び込む」の捉え（「保育の心もち」2009）を参考に「遊び込む」姿を共通理解し、研究をスタートすることにした。

#### 遊び込むとは

- ・「没入している」状態、集中している状態
- ・子ども達ならではの発想によって遊びが展開継続している過程にある状態
- ・遊びの素材を使いこなし、我がものとしていく状況

上記の3つの状態、状況を満たしている姿だと捉える。

### 4. 研究の目的

- ・ 本園の幼児の遊びから「遊び込む姿」とはどのような姿かを探る
- ・ 「遊び込む姿」を支える教師の援助、環境の構成を探る

### 5. 研究の方法

#### (1) 事例を記録する

- ・ エピソードを綴る

「遊び込む」をキーワードに、幼児の遊びの場面の事例を収集し、文章で記録する

- ・ VTR を活用する

幼児らの遊びの姿やそこにかかわる教師の姿などを撮影し、記録する

#### (2) 事例研究をする

持ち寄った事例を読み合ったり、VTRを視聴したりして協議し、幼児の遊び込む姿の捉えや、環境の構成、教師の援助について共通理解を深める。また、「遊び込む姿」を視点に事例を分析、考察していく。